



特別
企画展

立山を描く

スケッチ 武井真澄画「剣岳」部分 松本市立博物館蔵



山に向けられたまなざし……

公開 二〇二五年 七月十九日(土)～八月二十四日(日)

スクラップブック 武井真澄作成「黒部・白馬・立山」から 松本市立博物館蔵

君は、あの立山の絶景を見たか――



富山県「立山博物館」

四館連携事業
富山県美術館・富山県水産美術館・
富山県立山博物館・高山の国文学館



【開館時間】午前九時三〇分～午後五時まで(入館は午後四時三〇分まで)

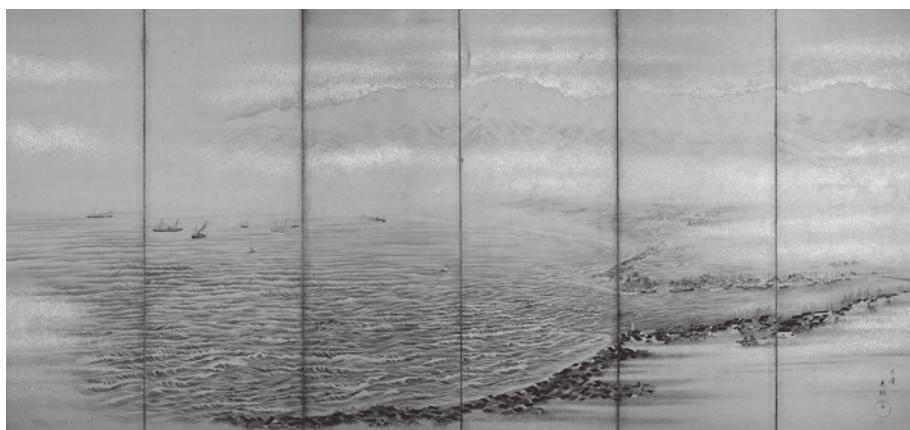
【観覧料】一般二、〇〇円【大学生】一、〇〇円 高校生以下、各施設提携の団体をお招きの方など、お一人一人の観覧料は異なります。学校教員、社会教育で利用する児童・生徒の観覧料は申請により無料となります。



令和7年度
前期特別企画展

立山を描く

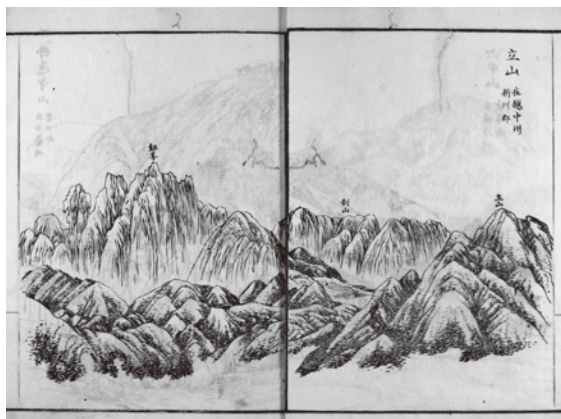
●山は、古来、人々の崇敬を集め、神の山とされた「立山」も人々の心を捉えてきました。立山がいつから描かれているかは定かではないものの、江戸時代中期の、池大雅『三岳紀行図』（京都国立博物館蔵）や谷文晁『日本名山図会』（個人蔵）などが知られています。●江戸から明治へと時代が移る頃、西洋文化の流入を受け、絵画表現は、伝えるためのものから、表現自体を意識したものへと変化を見せます。そして、山は芸術表現の主題の一つとなり、徐々に普及する写真や映画の題材になるなど、さまざまに表現されるようになりました。●本展では、歴史的経緯を踏まえつつ、近現代の表現を中心に多様な視点による立山の姿を紹介します。これにより、立山をあらためて見つめる機会となれば幸いです。……



①



②



③



④



⑤



⑥

①石崎光瑤「富山湾真景図」

明治31年(1898)頃 紙本金砂子着色・屏風六曲一双(右隻のみ)
南砺市立福光美術館蔵

作者は旧福光町出身の日本画家。本作は、初期の作であるにもかかわらず、確かな画力を感じさせる一作である。

②横山大観「立山遠望」

明治38年(1905)頃 絹本墨画淡彩・軸装 富山県水墨美術館蔵

作者は富士山を数多く描いたことで知られるが、そのきっかけは立山から見た富士の美しさに魅了されたからだという。

③谷文晁／画：川村寿庵／編「日本名山図会」

文政7年(1824) 紙本墨摺 個人蔵
文化2年(1805)に88図を所収した「名山図譜」として刊行されたものに、文化4年(1807)に2図を加え改題して刊行されロングセラーとなった。

④佐伯信春「富士山の遠望」

平成11年(1999) 紙・鉛筆 佐伯信春氏蔵
作者は立山黒部アルペンルートの建設に従事した芦峯寺の人物。雄山の頂上、社務所から見た富士山を描く。

⑤武井真激「スケッチ 佐伯平蔵」

昭和11年(1936) 紙・墨 松本市立博物館蔵
昭和11年に立山を訪れた長野の作家、武井真激が、芦峯寺ガイドの草分けとして名高い佐伯平蔵を描いたもの。作者は同年3月の日本山岳画協会の創立に参加している。

⑥奥田元宋「剣岳スケッチ 昭和四拾一年八月廿一日 於仙人池」

昭和41年(1966) 紙・着色 志鷹新一郎氏蔵
作者は、「元宋の赤」と呼ばれる、独自の風景画で知られる日本画家。剣岳を描くために逗留した仙人池ヒュッテに贈られたもの。初公開。

主催 富山県[立山博物館]

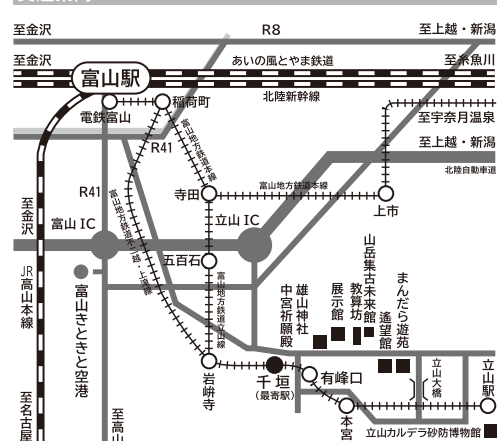
共催 北日本新聞社

後援 北日本放送、チューリップテレビ、富山テレビ放送、

NHK 富山放送局、Net3

※本展は、富山県美術館、富山県水墨美術館、高志の国文学館との四館連携事業の一環として開催します。

交通案内



【電車の場合】富山地方鉄道立山線「千垣駅」下車、徒歩約30分(約2km)
※日曜日・祝日を除き、千垣駅から町営バス運行。「雄山神社前」下車すぐ。

【車の場合】JR富山駅から約45分／富山地方鉄道「立山駅」から約15分
北陸自動車道「富山IC」から約35分／「立山IC」から約30分

【展示構成】

I | むかしはどうだったろう

明治時代以前の表現、名所絵や絵図など

III | 登った、描いた

実際に立山に登って描いた絵画、絵と実景など

II | 近代の夜明けとともに

明治時代以降の動向、近代絵画と立山

IV | 様々な表現で

今日的に、多様に表現された立山の姿

【担当学芸員による展示解説会】

7月19日(土)、8月2日(土)・16日(土) いずれも 14:00-15:00

富山県[立山博物館]
TATEYAMA MUSEUM of TOYAMA

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺 93-1
TEL=[076]481-1216 FAX=[076]481-1144



tatehaku.jp



山に向けられたまなざし……